

= 諸報 =

図書館長と学生利用者との懇談会を開催

(情報図書課)

図書館長と学生利用者との懇談会を2月1日(水)に開催しました。この懇談会は、国立大学図書館協会地区協会助成事業の一環として実施したものです。

参加した学生は、各系列より推薦された学部1年次の5名、修士1年次の大学院生と博士1年次の大学院生各1名の合わせて7名でした。

懇談会では以下の5つのテーマ毎に意見交換を行いました。

テーマ1 図書館を利用して感じること・改善してほしいこと

テーマ2 図書館各種サービスについて

テーマ3 図書館職員の対応について

テーマ4 今後の協力

テーマ5 図書館でできる斬新なアイデア

特に、テーマ1については活発な意見交換が行われ、「勉強の合間のリフレッシュとしてDVDを利用しているので、内容を充実させて欲しい」「コミュニケーションホールを24時間開けてほしい」「趣味関係の雑誌を置いて欲しい」などの意見がありました。

テーマ4については、国立大学図書館協会地区協会助成事業の企画として今後予定しているブックハンティング(選書ツアー)への協力もお願いしました。

図書館職員では気づかないような意見が多数あり、非常に有意義な懇談会となりました。



図書館長より挨拶



懇談会の様子

日本政策金融公庫マーケティングセミナー&ビジネス商談会に参加

(地域共同研究センター)

北見工業大学は、昨年10月に日本政策金融公庫旭川支店と相互の発展と地域への貢献を目的とし、産学連携の協力推進に関する覚書を締結しました。地域企業の技術ニーズ情報と本学の研究シーズ情報を交換するなど、様々な活動を具体化し始めています。その一環として2月2日（木）に日本政策金融公庫旭川支店にて日本政策金融公庫旭川支店・北見支店主催の「道北地区マーケティングセミナー&ビジネス商談会」が開催され、本学からは地域共同研究センターの内島典子産学官連携コーディネーターが参加しました。

今回は、上川管内、オホーツク管内の「食」に関わる産業界を中心とした計14社が参加しました。ビジネス商談会の前に、参加者の皆様に、本学の歴史、旬な研究情報などを紹介する時間をいただき、研究を推し進めるだけでなく、様々な形での連携ができるという大学の活用についてお話しました。

ビジネス商談会では、本学も含め参加者全員がお互いに15分から30分の情報交換を行うなど、参加者同士のネットワーク構築も行われました。

今後、この新たなチャンネルを通し、本学の社会貢献水準が更に高まることを期待しています。

北海道新工法・新技術商談会および札幌モーターショーで技術展示

(地域共同研究センター)

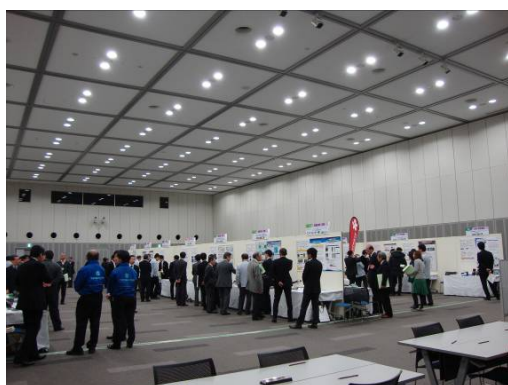
地域共同研究センターでは、北見工業大学で進められている様々な研究の成果を広く社会に伝えるための広報活動に取り組んでいます。このたび、社会環境工学科の川村彰教授とサテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリーの富山和也研究員が進めている車体挙動解析技術を活用した路面平坦性評価に関する研究について取りあげ、「北海道新工法・新技術商談会」と「札幌モーターショー2012」でその成果を展示しました。

北海道新工法・新技術商談会は北海道が毎年自動車会社を会場に開かれている北海道の技術PRイベントで、今年度は2月9日に愛知県刈谷市の(株)デンソー本社を会場として開催されました。(株)デンソーをはじめ関連の企業から、展示技

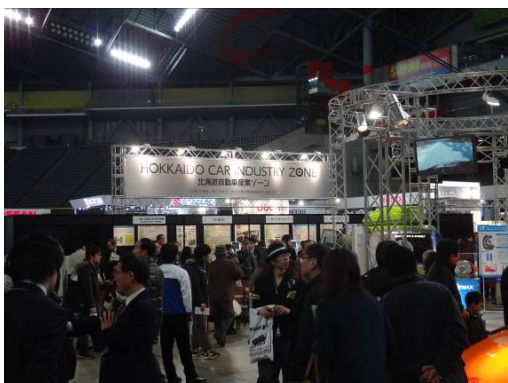
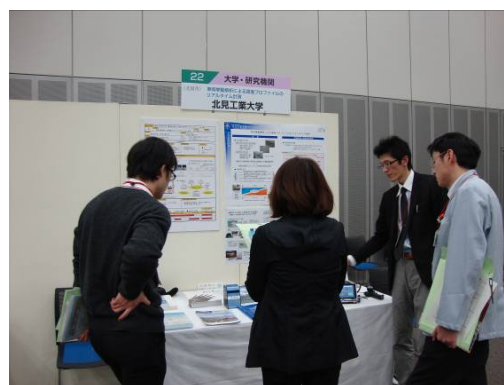
術に興味を持つ数百名の技術者や経営者が来場しました。2月17日から19日に行われた札幌モーターショーは北海道初のモーターショーで、3日間で12万5千人を超える来場者を集める熱気に溢れたイベントとなりました。

展示した路面評価技術・装置は、路面評価のみに留まらず、車の設計や荷物の輸送に関する技術開発などに活かすことのできる知見をもたらすものです。来場者から強い関心を集め、川村教授との共同研究を検討したいとの意向も寄せられました。

研究の広報のみならず、大学の広報としても大きな成果を挙げる機会となりました。



北海道新工法・新技術商談会での技術展示（愛知県刈谷市）



札幌モーターショーでの技術展示（北海道札幌市）



北見市立東小学校の理科実験研修を実施

(技 術 部)

昨年8月19日に調印された北見市教育委員会との連携協力に関する協定に基づき、2月10日(金)に北見市立東小学校において先生を対象とした理科実験研修を初めて実施しました。

これは、理科教育の充実を目的として東小学校から依頼されたもので、技術部で検討した結果、講師として須澤啓一係長を派遣しました。

当日は、東小学校の先生15人が参加し、実験を含む講義を行いました。講師の説明に従って、小学校教科書の新しい単元内容

に基づいた手回し発電機、コンデンサーやLEDライトを使用した電気実験や、教科書の内容を少し発展させた電気実験等も行いました。

渡邊英樹校長先生からは研修の修了時に、「教材からは気づかないものに気づかせてくれました」との言葉をいただき有意義な研修を行うことができました。

今後とも本学の地域連携事業を通じ技術部も主要な役割を担い、子どもたちの基礎学力向上及び理工系人材確保の一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。



理論及び実験の概要説明



発光ダイオードを使用した実験



コンデンサーを使用した実験



手回し発電機で100Wの電球を点灯

マネジメント工学コース第一期生の卒業論文発表会

(マネジメント工学コース)

平成 20 年度の学部改組により設けられた、マネジメント工学コースの第一期生が取り組んだ「マネジメント工学プロジェクト」の卒業論文発表会が、平成 24 年 2 月 27 日(月)、総合研究棟 2 階の多目的講義室で開かれました。

本コース学生が取り組んできた研究テーマは、マネジメント・ツールを使った工学から、マネジメントのための技術、研究開発のマネジメント、そして典型的なマネジメントまで、広範な領域に及びます。発表者の中には、工学系やマネジメント系それぞれの専門分野の学会で既に発表を経験し

た学生も数名おり、発表・質疑応答を通じ、緊張の中にも頼もしさを感じさせるプレゼンテーションが相次ぎました。

また、各学科等の教員だけでなく他コースや 3 年次の学生も参画し、参加者述べ 70 人を越える盛大な発表会となり、テーマ、発表、参加者などいずれをとってもマネジメント工学コースらしい、多彩で活発な発表の場となりました。

その学生も 3 月 21 日をもって卒業し、「将来の社会を担う幅広い能力を備えた人材」として、大いに活躍し社会に貢献してくれることを期待しています。



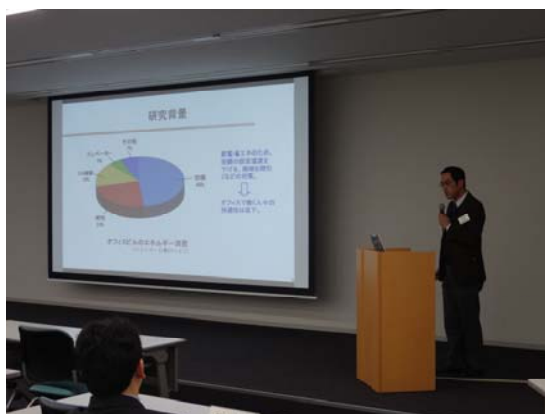
2 月 27 日に開かれた平成 23 年度のマネジメント工学コース卒業論文発表会

北海道地域 3 大学新技術説明会参加

(地域共同研究センター)

(独)科学技術振興機構(以下、JST)と北海道大学産学連携本部が主催の「北海道地域 3 大学新技術説明会」が、2 月 28 日、東京市ヶ谷の JST 東京別館ホールで開催されました。新技術説明会は、大学、公的研究機関および JST の各種事業により生まれた研究成果の実用化促進を目的に、大学研究者が技術説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナーを募る場として JST が定期的に行っています。

今回、北海道大学、はこだて未来大学、北見工業大学が参加し、本学からは、マテリアル工学科の阿部良夫教授、機器分析センターの大津直史講師がそれぞれ進めている研究について紹介しました。会場には 97 人の来場者があり、両研究者のプレゼンテーション後には、企業の方からの個別相談も行われ、研究の今後の取り組みに関する有意義な情報交換が行われました。



JST 東京別館ホール 左) 大津講師の発表、 右) 阿部教授の発表

安全衛生講習会を開催

(施 設 課)

2月29日(水)、平成23年度第2回安全衛生講習会を開催しました。講習会は労働安全衛生法に基づき、教職員の健康増進を目的として例年実施されています。

今回は学生相談室カウンセラー白川純子氏を講師に「職場のストレスのコミュニケーション～「アサーション」と「アンガーコントロール」を学ぶ～」と題し職場におけるストレスマネジメントについてご講演いただき、約30名の教職員が参加しました。

講習会はストレスマネジメントに関する学術的沿革の説明の後、代表的なストレスマネジメント方法のひとつである「コミュニケーションの技術」について、日常業務で発生しうる会話を例に挙げて「適切な自己表現・伝え方(アサーション)」を考え、何らかのストレスによって起きた「怒り(アンガー)」をどのように受け止め、表現するかなどを資料の図等を使って説明いただきました。



講習会の様子

図書館情報システムを更新

(情報図書課)

3月1日に図書館情報システムが更新されました。図書館情報システムとは、図書館の職員が使用する業務端末だけでなく、利用者が本を探すときに使用する蔵書検索システム(OPAC)も含まれます。今回のシステム更新で新たに利用できるようになった機能をご紹介します。

(1)電子ジャーナルが、OPAC から直接検索できるようになりました。これまで OPAC とは別ページから検索していた電子ジャーナルが、蔵書検索から直接検索できるようになりました。また、契約タイトルについては、学内の端末からであれば(蔵書検索専用端末を除く)1クリックで該当のページへ遷移します。

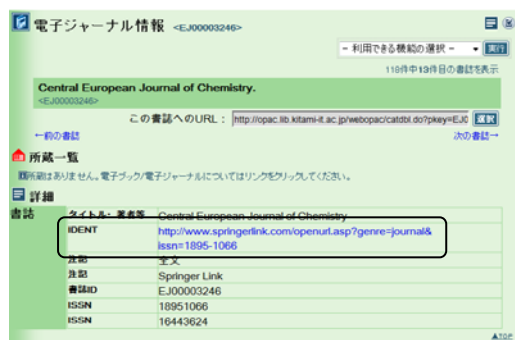
(2)横断検索機能が追加されました。これにより、北見工業大学図書館の蔵書だけでなく、全国の大学図書館の蔵書や国立国会図書館の蔵書、更に雑誌記事も同時に検索できます。

(3)図書館 WEB サービス「My Library」が統合ユーザアカウントから利用できるようになりました。これまでは図書館発行の ID とパスワードを使用していましたが、今後は統合ユーザアカウントでご利用ください。シングルサインオンシステムからもログインできます。

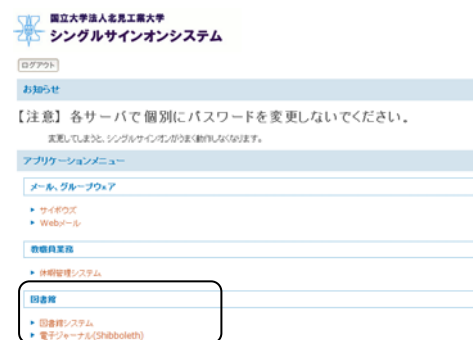
(4)セルフ貸出機が新しくなりました。一時的に使用中止にしていたセルフ貸出機も新しくなりました。ご自分で簡単に貸出ができます。

(5)電子ジャーナルが学外からも利用できるようになりました。学術認証フェデレーションという電子リソース運用のフェデレーションに参加することにより、ご自宅や出張先からも電子ジャーナルが利用できるようになりました。(利用できないタイトルもあります)

より便利になった図書館の各サービスを是非ご利用ください。お気付きの点やご要望等あれば、図書館までお知らせください。



OPAC の電子ジャーナル画面。
画面中央のリンクから各誌のページへ。



シングルサインオンシステムから図書館
の各サービスがご利用できます。

FD 講演会を開催

(学生支援課)

3月5日(月)沼津工業高等専門学校の大石加奈子准教授と北海道工業大学の塚越久美子准教授をお迎えし、多目的講義室においてFD講演会を開催しました。

この講演会は、「学生に対する「書くこと」「話すこと」の早期のトレーニングが重要であり、このことを先進的に実践されている先生方の事例を本学教員の方々にも知っていただきたい」旨の要望が学内からあり、教育改善推進センター兼任会議で、この内容でのFDが必要であると判断し開催したものです。

大石准教授からは、「エンジニア育成のためのコミュニケーション教育の方法と実践」と題して、コミュニケーション能力を構成

する要素と事例紹介をいただいた後、参加者が二人一組となって問題解決力を引き出すためのトレーニングを実施しました。

塚越准教授からは、「理工系学生のための日本語表現法 ～リメディアル教育の意義と実践～」と題して御講演をいただき、客観的事実のみを記載する報告書の作成から開始し、自己アピール文などの感情表現を含む文書作成に移行していく教育手法と実践例が紹介されました。

今回のFD講演会には52名の教職員から参加があり、講演時間が2時間と短かったため質問時間を十分に確保できませんでした。参加者と講師が一体感を持った有意義な講演会となりました。



講演中の大石准教授(左)と塚越准教授(右)



←二人一組のトレーニングの様子

個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

3月9日(金)、総合研究棟多目的講義室において平成23年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を実施しました。この研修は保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の醸成を図るため毎年開催しているものです。

今回は、本学情報処理センターの升井洋志准教授により、「北見工大における個人情報保護」と題し、『『被害者』とならないためには、『加害者』とならないためには』と

いう2つの観点から、個人情報保護に対する心構えと注意点、本学の規程等について、いくつか事例を交えながらの講演を実施しました。

講演には44名の教職員が参加し、「めんどくさいと思うようなことの積み重ねが重要」との説明に、各受講者も熱心に聞き入っており、本学における個人情報保護に対する意識も高まり、有意義な研修となりました。



講師の升井准教授



研修の様子

北見医工連賞授賞式・オホーツク医学大会を開催

(地域共同研究センター)

3月10日(土)、本学 A101 講義室において、北見医師会、北見医工連携研究会主催による第5回オホーツク医学大会が開催されました。

大会の初めに、主に若手研究者の医療工学研究のために設けられた北見医工連賞の贈呈式を行い、本年は本学電気電子工学科の橋本泰成准教授が授賞いたしました。まさに若手の先生ですので今後の医療工学研究等への活躍に期待がよせられています。

また、北見医師会、北見歯科医師会、オ

ホーツク獣医師会、本学、日本赤十字北海道看護大学等から一般講演が8件あり、その中では癌等の手術事例の報告もあるなど、地域の医療事情がよくわかり、こういった機会をもっと市民の皆さんも活用して欲しいものだと感じました。さらに、特別講演では産業技術総合研究所の伊藤亮氏からインターフェロン作用を持つ植物の開発などが紹介され、医療工学にもつながるおもしろい報告でした。



北見医工連賞授賞式



橋本准教授の講演

新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン成果報告会を開催

(地域共同研究センター)

平成 18 年～22 年度で終了した JST((独) 科学技術振興機構)の事業「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」を、平成 23 年度においては北見市のご協力により「産学官連携第 6 次産業人材育成事業」として継続することが出来ました。第一次産業製品の工業化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードに新規作物の作付けから商品造りまでの知識を有した「工学的農業クリエイター」の創出を目指し取り組んだものです。

3 月 15 日(木)に本事業の成果報告会があり、その中には、受講生(10 名)による幾多の製品、商品が開発されたものの中から、特に商品化に結びつきそうなものとして、摘果リンゴを使用した「フルーツ羊羹」、ニンジンから化粧品、大豆から作ったマヨネーズ、植物工場によるサラダ用ほうれん草、薔薇の栽培技術と香料化、木イチゴソース等々の発表がありました。



新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン成果報告会の様子

地震を想定した防災訓練の実施

(施 設 課)

3月16日（金）、地域共同研究センターで地震発生時の安全確保及び地震によって発生した火災に対する初期消火・避難誘導等の防災訓練を実施しました。震度5強の地震が発生したという想定のもと、ドアのゆがみによる閉じ込めや、棚などの転倒によるけが人が発生していないかを、声を掛け合って安否の確認を行いました。

けが人が発生しなかったことが自衛消防隊地区隊本部に報告された後、地震によってセンター1階104実験室から出火したという想定で、火災訓練が行われました。第一発見者は初期消火及び119番通報と本部キャンパスへの連絡を行い、ほどなく到着した自衛消防隊地区隊は隊長（川村彰センター長）からの指示のもと、各自任務にあ

たりました。

訓練終了後、北見地区消防組合消防署松村様から「地震発生時には避難経路の確保や火の元を確認することも大事だが、まず自分の身の安全を確保してほしい」、「地震発生後に119番通報したとしても現場に向かう事ができないケースが考えられるため、いざという時には自衛消防隊など自分たちの力で対処するという心構えが大切です」との講評をいただきました。

また、訓練には教職員だけでなく地域共同研究センターに常駐しているオホーツク融合センター・中小企業基盤整備機構・北見産学医協働センターの方々も参加し、万が一に備えて安全確保や避難経路の確認を行いました。



火元発見者による119番通報



自衛消防隊に指示を出す川村センター長

北見工業大学ロゴマーク決定！

(企画広報課)

北見工業大学の特徴やイメージを象徴するロゴマークとキャラクターを昨年 10 月から 12 月中旬まで一般公募したところ、全国からロゴマーク 539 点、キャラクター 274 点、総数 813 点の応募がありました。

その後、応募作品の第 1 次選考を行い、学生・学内教職員の意向調査を経て、広報委員会で下記の作品を最終選考し、3 月 19 日(月)に受賞者列席のもと、表彰式を挙行し、同時に一般公開しました。

ロゴマーク部門最優秀賞の若松雄一氏は、奥様の兄が本学の元教員であったこと等、本学に縁のある方であることが分かりました。

残念ながら、キャラクターの最優秀賞には該当作品がありませんでしたが、決定したロゴマークは今後の広報活動に積極的に展開するとともに、皆さまから末永く愛されることを期待してやみません。



左から高橋氏、鮎田耕一学長、若松氏、芦田氏

ロゴマーク部門 最優秀賞作品



コンセプト

地域や地球環境とのつながりをイメージした輪 (Ring) は、Kitami の頭文字 K を図案化したものです。また、小さな円で瞳を表し組み合わせることで、地域をはじめ日本や世界に向けて情報発信する大学であるようにとの願いが込められており、星マークは北天に輝く星を、カラーは日照率の高い北見の空とオホーツクの青い海を表現しています。

受賞者

	ロゴマーク部門	キャラクター部門
最優秀賞	若松雄一氏	該当なし
優秀賞	芦田為美氏	高橋政幸氏

寒地土木研究所と連携・協力に関する協定を締結

(研究協力課)

3月22日(木)、本学において「国立大学法人北見工業大学と独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所との連携・協力に関する協定調印式」を実施し、関係者が見守る中、鮎田耕一学長と川村和幸所長が協定書を取り交わしました。

本学と寒地土木研究所との交流は、本学が4年制の大学として設置されたときから現在に至るまで続いており、これまで土木や寒冷地工学といった分野での共同研究や講師の派遣などのつながりがありました。この協定締結は、組織と組織との連携とい

う大きな枠組みの中で協力関係をより強力なものとし、相互の発展に寄与するとともに、北海道の振興に資することを目的としたものです。

今後は、土木系、特に寒冷地工学系の共同研究や人材交流をより一層推進するとともに、幅広い分野での共同研究や公募型競争的資金の共同参画、研究設備・施設の相互利用など連携を強化していき、本学と寒地土木研究所との関係がさらに緊密なものとなり、研究開発・人材交流が推進されることを期待しています。



協定書を取り交わす川村所長（左）と鮎田学長（右）

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学 永年勤務者表彰式（退職時表彰）を挙

（総 務 課）

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学
永年勤務者表彰式（退職時表彰）が 3 月 30
日（金）午前 9 時 40 分から第 2 会議室にお
いて行われました。

本学永年勤務者表彰（退職時表彰）の被
表彰者に対し、学長から表彰状の授与並び
に記念品の贈呈が行われました。

被表彰者は下表のとおりです。（50 音順）

氏 名	所 属 学 科 等
大 島 俊 之	社会環境工学科
前 田 寛 之	社会環境工学科
柴 田 孝 次	情報システム工学科
鰐 目 淑 範	社会環境工学科
村 井 伸 夫	研究協力課

